

手賀沼の魚、貝類の調査



千葉県我孫子市の手賀沼やその周辺流域で、魚や鳥の調査を行うほか、親子自然観察会を開くなど、 楽しみながら手賀沼の水辺の生きものの保全・復元にかかわり、少しでも「生きものの豊かな手賀沼」 を実現するお手伝いをしたい、と考えている団体。主に、市民にむけた自然観察会や外来生物の調査 や駆除を行っています。

2007年11月4日 第1回手賀沼湖底調査 手賀沼大橋東側

	ポイント名	湖底の状態	下船可•不可	生息を確認した生物	備考
1•2	①水の館前、漁協寄り	砂地(水深・ヒザ)	可	タナゴ稚魚、モロコ、スジエビ?	沼南園「①より東側は砂地」
3	②水の館東側のヨシ帯	砂泥	可	スジエビ?、タナゴ稚魚	生き物の気配が希薄
4	①入り江	水深1.2m、ヘドロ深 40cm	不可		
5	5(1)	ヘドロ深 1m	不可		
6	52	水深1m、ヘドロ深60cm	不可		
7	'①	砂地(水深・ヒザ)		スジエビ?(多数)、モロコ、モツゴ、 ヌマチチブ	50cm大のライギョの死骸あり。 沼南園「この時期はナマズやラ イギョの稚魚も出ている」
8	32	水深1m、ヘドロ40cm	不可		
Ç	3	水深1m、ヘドロ20cm	不可		
10	①排水溝流入口付近	ヘドロ深く危険	不可	コブハクチョウ、カモメ、ウ	ヘドロのため船も乗り入れでき ず。
	①	すぐ沖合いはヘドロ	可(岸寄りのみ)	50cm大の大魚(サケ?)モツゴ、 スジエビ?	
11	1	水深20cm	可	スジエビ?ヌマチチブ	水深浅く、人力で船を移動
	①蓮群生地	水深1.4m、ヘドロ1m	不可		ヘドロ深く危険
	①沼南園前			スジエビ?、モツゴ(いずれも大漁)、 タナゴ、ブルーギル(稚魚)	確認された生き物はすべて モンドリにかかったもの



第2回 手賀沼湖底&生き物調査 2007・12・1

第4回 手賀沼湖底&生き物調査 2008・3・15





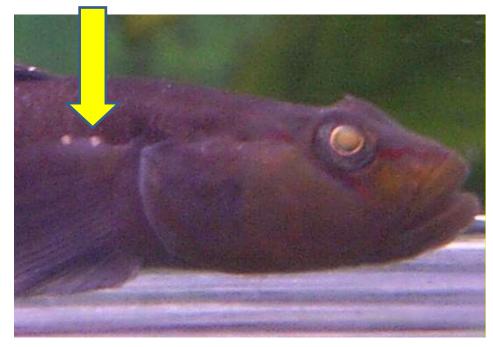
大型二枚貝の生態

手賀沼でとれたドブガイ



種別妊卵期	+	-	*1	-					
	春	夏	秋	冬					
タガイ		一年中 複数回妊卵							
ヌマガイ	春か	ら夏							
マルドブガイ	一年中 複数回妊卵								
フネドブガイ			秋から初春						
カラスガイ				晩秋から初春					

クロキディウム幼生を胸ビレにつけたヨシノボリ 2008・5・15手賀沼で採取



タナゴ (マタナゴ) 2008・6・4

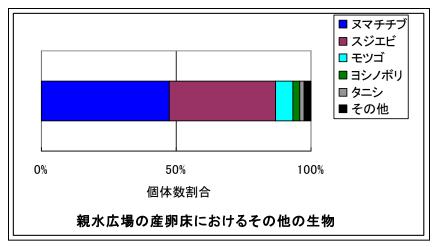
千葉県立我孫子高校の谷城勝弘氏により同定

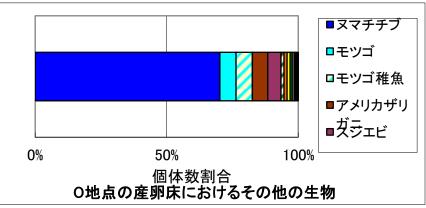


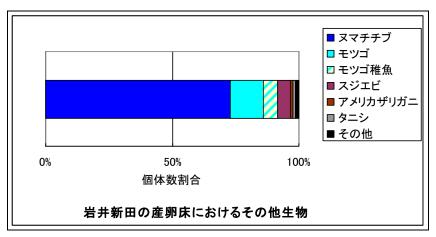


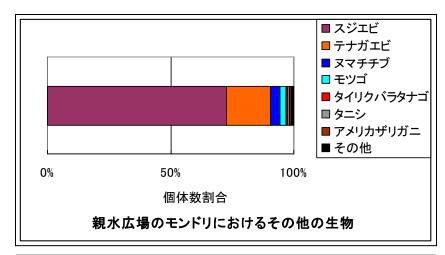
サデ網、モンドリによる捕獲 2008.6.1

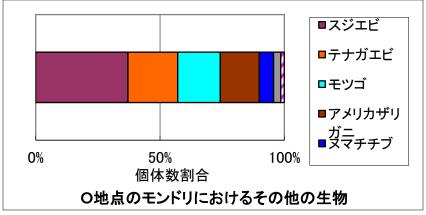


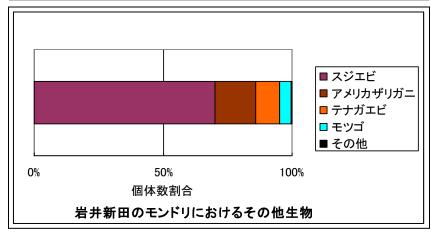












2008 グラフ作成 矢竹一穂

第10回【手賀沼湖底&生き物調査】 2009-5-30

- 手水協の事業モデルとして親水広場前での観察会を船上から行った。
- ・オオクチバスの稚魚が親水広場前で取れた。サンプル用にホルマリン固定
- ・スジエビの発生時期であった。(昨年と変わらない)調査した手賀沼全域
- ・ガサガサでとれた生き物優占順位は、スジエビ、モツゴ、タイリクバラタナゴの順
- ・先週より人工産卵床につくワムシの数が増えている。
- 人工産卵床につくヒメタニシの数が増えている。
- ヨシノボリが入り始めている。
- 人工産卵床に産み付けられたヌマチチブ卵はほとんどが孵化していた。
- ・ライギョの稚魚が親水広場前で取れる。
- ・親水広場前の稚魚発生状況は昨年より少ない。特に昨年工事が行われたウッドデッキ東側が極端に少ない
- 高野山前の手賀沼の稚魚発生状況は少ない。
- ・ビオトープ前の稚魚発生状況は良好
- ・ 亀成落としの稚魚発生状況は良好。 特にスジエビが多い。
- ・亀成川合流点下流付近は水深が浅いので、船で航行する場合は注意が必要。
- 手賀沼のドブガイ類の生息状況は良好と思われる。











2010-5-15 第16回【手賀沼湖底&生き物調査】

- ・2010年は、4月12日に雪が降った影響もあり、手賀沼の繁殖時期が1週間~2週間遅くなっている。
- ・コイやフナの繁殖行動にも影響が出ており、これまでは小規模な「はたき」しかみられていない。
- ・モツゴの産卵時期も、ずれ込んでいる。
- ・ドブガイ貝殻に、カワヒバリガイの付着が複数見られた。
- ・親水広場前の底質は、浮泥の割合が減ってきて、砂地が増えている。
- ・モンドリやガサガサで取れる魚が、例年に比べて少ない。





2011-12-3



魚類:ハスの中:4、ハスの外:4 モンドリを仕掛け50分後の結果 ハスの中は 魚類の越冬場所になっている。

貝類:大津川河ロ干潟、岩井新田で調査を実施 以前多く生息していたが今回は非常に少ない。

タモロコ>モツゴ 60匹以上 タモロコ 1匹 シジミ 1個 ドブガイ貝殻

全体のプランクトンの特徴	1、蓮群落内 プランクトンの特徴	2、群落外 プランクトンの特徴	3、岩井新田プランクトンの特徴
全体的にプランクトンの密度は低い。	線毛虫類が多い、クサリ珪藻 ワムシ類	せん毛虫、クサリ珪藻多い、	泥の中にはあまりいない、せん毛虫、
ワムシも多くない。	クサリケイソウ	ユレモ、クマムシ	オシラトリア
その割りに原生動物が多い。	ツボワムシ	フォルミディウム	(藍藻、ユレモの仲間)
珪藻は多い。緑藻類少ない。	センモウチュウの仲間(原生動物)	(藍藻ユレモの仲間)	メリスモペディア(藍藻)
藍藻類も少ない。	(ビワツボカムリ?)	ツボワムシ	ツボカムリ
ミジンコ少ない。		ケイソウの仲間	原生動物(殻のあるアメーバの仲間)
ノウプリウス少しいる。			センモウ中の仲間

漁協桟橋 10.6℃ 7プランクトンの特徴 原生動物、珪藻類多い、 ケンミジンコ、緑藻、藍藻少ないがいる

















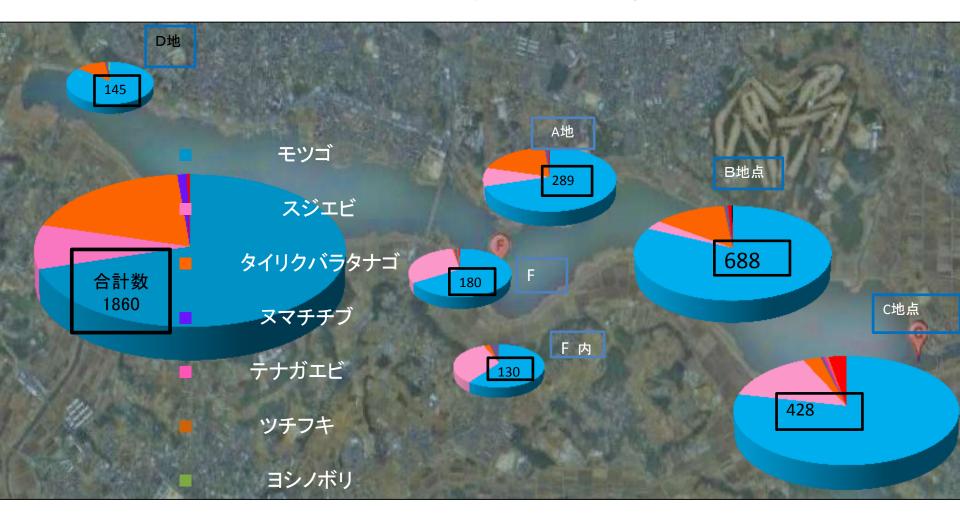
2012-6-17 2012-9-2

2012-9-2

水質場所比較表	A	В	С	D	Е	F 外	F 内
水温(℃)	27.5°	27.4°	28°C	28°C			
透視度(cm)	14.1	11	13.8	13			
DO(ppm) 溶存酸素			8	8			
COD(ppm)	8以上 16	8以上 17	8以上 13	8以上 15			

モンドリによる捕獲 モンドリ数	6	6	6	6	6	3	小計
モツゴ	203	565	336	125	119	78	1426
スジエビ	27	22	63	0	56	44	212
タイリクバラタナゴ	55	90	12	17	1	3	178
ヌマチチブ	3	5	2	2	2	5	19
テナガエビ	0	0	2	0	0	0	2
ツチフキ	0	0	1	0	1	0	2
ヨシノボリ	0	0	0	1	0	0	1
アメリカザリガニ	1	5	12	0	1	0	19
ウシガエル オタマ	0	1	0	0	0	0	1
小計	289	688	428	145	180	130	1860

2012-9-2 手賀沼湖底&生き物調査



- **■** アメリカザリガニ
- ウシガエル オタマ

調査概要

- ・モンドリによる生息種及び捕獲数の調査と、可能な箇所ではガサガサとジョレンに よる貝類調査も実施した。
- ・6月調査ではモツゴの稚魚も卵も非常に少なかったが、今回の全ての箇所でモツゴ が多数捕獲された。
- ・ハス群落では、モツゴ数は他地点と比較して少ないがスジエビが多い傾向であった。
- ・手賀沼大橋西側の根戸新田のマコモ回りや沖合いのオダ周りでは、大型個体の2年物以上がほとんどで手賀沼大橋東側の4か所の調査地点すべてでは、当歳魚の割合が 多かった。

ハス繁茂地の調査を終えての感想

ハス繁茂場所の下流の岩井新田付近の岸沿いが、ガラッと変わっているのには驚きました。

手賀沼の流れの筋が変わってしまったようです。岩井新田沖の底質も、ヘドロ量が多くなって しまっていて、二枚貝の生息に適さない環境に変わりつつあると思います。